

第1回日本スポーツグランプリ受賞者（功績）

1.	うちだ ゆきえ 内田 雪江	（女） 94歳 熊本県	卓球	顕彰対象区分（2）
<p>学生時代から長年、卓球に親しみ、60歳を過ぎてから競技大会を目指した本格的な取り組みを始めた。「全日本選手権大会」では、70歳代の部、80歳代の部で優勝幾多、また、「世界ベテラン卓球選手権大会」では、80歳代シングルで2回優勝し、更に、平成16年の同大会では92歳にかかわらず、80歳代のシングルとダブルスの両種目で優勝を遂げた。</p>				
2.	さとう としじ 佐藤 利次	（男） 91歳 宮城県	水泳	顕彰対象区分（1）
<p>青年期より水泳に親しみ、壮年期には「国民体育大会」や「全国勤労者大会」で活躍した。その後、マスターズ選手として宮城県大会や東北大会、全国大会等に出場し、年齢別で数々の優勝、また、日本記録・世界記録を樹立した。現在も「男子100m背泳ぎ」90～94歳の部で世界記録を保持するなど、多くのマスターズ選手の模範となっている。</p>				
3.	てんの こうへい 天野 耕兵衛	（男） 85歳 石川県	剣道・ハンドボール・ランニング	顕彰対象区分（1）
<p>学生時代には剣道に打ち込み、社会人ではハンドボール競技を継続実施してきた。50歳からランニングのトレーニングを開始し、以来35年間、ランニングを継続実践している。「ホノルルマラソン」には、昭和55年から現在まで24年間連続参加し、毎年、活躍を続けている。</p>				
4.	みやもと かい 宮本 海	（男） 87歳 静岡県	剣道	顕彰対象区分（1）
<p>学生時代より剣道に取り組み、「国民体育大会」等で活躍を続けた。平成9年6月、難関とされる剣道八段昇段審査に挑戦する姿（当時78歳）がNHKテレビで放送され、その後も含め、計27回の挑戦を続けた。剣道への真摯な取組みや人格、見識が高潔であることが認められ剣道界最高位「範士」の受称を果たし、剣道界をはじめ多くの国民に感動を与えた。</p>				
5.	もりた きだよし 守田 貞義	（男） 90歳 東京都	ラグビーフットボール	顕彰対象区分（3）
<p>少年期より75年余りにわたり、ラグビー競技に取り組み「世界最高齢現役ラグーマン」である。「平成17年ゴールデン・オールディーズ・ワールド・ラグビー・フェスティバル（世界大会）」に出場し3トライを上げ最高齢殊勲賞を受賞、更に、「平成17年ねんりんピック」に90歳で選手兼監督として出場し、世界最高齢でのトライを上げた。</p>				
6.	もりた まづみ 森田 眞積	（男） 92歳 東京都	陸上競技	顕彰対象区分（2）
<p>旧制中学時代から陸上競技を続け、「全日本マスターズ陸上競技選手権大会」では、昭和55年の第1回から第20回大会まで、「走幅跳」で連続優勝を遂げた。また、「世界マスターズ陸上競技選手権大会」にも連続12回出場し金メダル27個を獲得しており、現在、男子75歳、男子80歳、男子85歳の「走幅跳」及び「三段跳」の世界記録保持者である。</p>				
7.	はらくち こうぞう 原口 幸三	（男） 96歳 宮崎県	陸上競技	顕彰対象区分（2）
<p>健康づくりにジョギングを始めて以来、陸上競技に取り組み、平成12年の「世界ベテランズ記念陸上競技大会」では、「男子100メートル」90～94歳の部で、18秒08の世界記録、更に、平成17年6月、95歳で出場した「宮崎マスターズ陸上競技大会」では、「男子100メートル」95～100歳の部で、22秒04の世界記録を樹立した。</p>				

注）年齢：平成18年7月12日現在